



看過できない発言

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼現在の安倍政権は高い支持率を背景に党内にかつてない強固な基盤を築いています。しかし、最近閣僚をはじめとした政府の内部からたびたび失言や問題発言が飛び出すようになりました。それも極めてみっともない言い訳や発言の撤回や謝罪を伴っています。「二強」と呼ばれるこの政権の構成メンバーになんとも劣悪な人材が含まれていることは嘆かわしい限りです。

▼中でも山本幸三地方創生・行政改革担当大臣の「一番のがんは文化学芸員と言われる人たちだ。観光マインドが全くない。一掃しなければだめだ」という発言は文化遺産に対する知識や見識のかけらもない、恥ずかしいものでした。観光立国を目指すのであれば、もつとも重要なのは観光資源です。文化遺産と自然遺産の存在こそが、これからの日本の観光立国を支える資源となるのです。観光マインドを云々する前に、世界に誇れる遺産をしっかり育てる心構えが国民全体に浸透していくことが必要です。学芸員はその担い手として法律で設置された専門職です。

▼観光立国はレベルの高いリピーターが数多く生まれることによって初めて可能になりま

す。一時の爆買いではなく、日本の文化に興味を持ち、より深く知りたいというファンを育てなくてはならないのです。うわべだけを飾った客寄せではなく、本当に価値のある自身の充実が欠かせません。

▼山本発言は、間違っていたから撤回すればよい、では済まされない問題を含んでいます。文化遺産への理解も見識もなく、文化行政への基本的な知識を欠き、しかも、自らの発言に責任を持たない大臣に誰がついていくでしょうか。こんな大臣ならいないほうがむしろすぐ一掃されるべきなのはこの輩です。

▼観光立国を標榜するのであれば、観光に値する国にならなければなりません。山本大臣は「観光マインドを持ってもらう必要がある

という趣旨だった」と言い訳していますが、学芸員の観光マインドをあげつらう前に指摘しなければならぬことがあるはずだ。快適な交通や宿泊施設の整備も急がなくてはなりません。地方創生のためにはバリアフリー化や洋式トイレの充実など、海外から訪れるセレブたちを満足させられる利便性の向上が急務です。思いがけない不便を強いられたら二度と来ないという結果になりかねないからです。それは海外からだけでなく、国内の観光客にとっても同じことです。経済的に恵まれていても、齢とともに身体機能は低下していきます。高齢の観光客を呼び込むためには、ストレスなく快適に過ごせる環境の整備が欠かせないのです。